

丹波山村ってどんな村？
山があって川があって、水もおいしくて、空気もきれい。
村に暮らすみんなの笑顔も夜空に光る星のよう。それからそれから...。
村人と自然をこよなく愛する面々が集まって、たき火を囲んで
「丹波山談義」のはじまりはじまり。村の魅力を再発見。

「丹波山村の自然に学ぶこと」

湯本 光子
YUMOTO Mitsuko
小学校教員 丹波中学校で11年にわたり理科を担当

柴田 尚
SHIBATA Hisashi
山梨県森林総合研究所 研究員

川村 協平
KAWAMURA Kyohei
山梨大学 教授 教育人間科学部

伴野 英雄
BAN-NO Hideo
桜美林大学 助教授 コア教育センター

平田 徹
HIRATA Tetsu
山梨大学 助教授 教育人間科学部

三島 次郎
MISHIMA Jiro
桜美林大学 名誉教授 国際学部



What kind of village is Tabayama? Mountains, rivers, delicious water, and pure air. People's smile is just like the stars shining in the night sky. And many other attractiveness. People of the village and persons who love nature talk about the village around fire. Now we rediscover attractiveness of the village.

..... 丹波山村とのなれその秘話

【三島】私と丹波山村の関係は、調査をおしてはじまりました。珍しい生活を営んでいるウスバアゲハ（注1）というチョウを調査するために、今から20年ほど前に、丹波山村に5年間通い詰めしました。30年前に丹波山村で力を集めてその多様性について研究しました。丹波山村は静かな山村で、心おきなく野外の生物について調査できまして、この自然に感謝しています。それが「縁でこのサミットに参加させていただいています」。

【平田】山梨大学の教育人間科学部で、教員養成の理科を担当しています。研究領域では丹波山とは縁はなく、海洋に生息している動物や植物などからなる生物群集がいかに安定しているかを研究しています。丹波山村との縁は、大学時代の仲間の一人に山歩きが好きながつがいて、丹波山村にいいパンガローがあるから行こうと誘われたのが最初です。そのとき、動物に育てられる「キマダラリツバメ（注2）」という珍種のチョウを見つけた。これが縁で三島先生の動物生息調査後、そのチョウは県の天然記念物に指定されるに至ったといういきさつがあります。それ以来、三島先生の多摩川流域の自然環境調査をお手伝いをしたという縁にすぎません。

【三島】（笑）すいぶん縁ですよ。キマダラリツバメ、まだいますかね？

【平田】確認はしていませんが桜並木はありませんから、まだ生息しているのではないのでしょうか？

【伴野】キマダラリツバメの幼虫は、桜の木につくアリに育てられているんですよ。私は、桜美林大学のコア教育センターで生物学を教えています。専門は「虫」でして

丹波山でブナの葉を食べるブナハバチや、桜を食べるサクラスガの研究をしています。丹波山村との縁は、結構古いです。1976年に臨時教師として日川高校に1か月半だけ教えにいらしてました。そのとき、競歩大会のチェック係として丹波山を通過したのが最初で（笑）、その後は多摩川やウスバシロチョウの調査などで何回来たかわかりません。今回は久しぶりで21年ぶりくらいですね。でも昔と変わらぬ山も豊かで水も豊かで、いいところですね。

【湯本】私は、高校生の頃に競歩大会でお世話になりました（笑）。山梨大学の学生の頃、両生類の研究が専門で、丹波山村にも調査にいらしてました。それから丹波中学校で11年間、教員として勤務しておりました。ちょうど三島先生が調査に見えられていた頃ですね。丹波山村は知った顔がいっぱいいて、居心地がいい場所ですね。役場の職員の中にも教え子がいっぱい（笑）。私自身、丹波山ではいい仕事をさせてもらっていました。

【川村】山梨大学の教育人間科学部で教員養成をしています。野外活動が担当で、そのかたわら予防医学の研究チームの中で勉強をしています。運動生理学の内容で、どういった暮らしをすれば元気に暮らせるか、そんな研究ですね。

今の時代に暮らす我々の中で、ちょっとリズムが狂ってきた体とか気持ちとか考え方を、自然の中で暮らすことで元に戻すことができるんじゃないか？そんなことを考えていまして、友人である浜松大学の人類学の先生と一緒に、アフリカの森で暮らすピグミー族の中で暮らしてみたい。そこへは血液循環の良否を判定する「加速度脈波計」という測定器をもっていきまして、「自然の暮らしをしている人たちは血

(注釈)
注1ウスバアゲハ / 別名ウスバシロチョウ。ギフチョウなどに近い原始的なアゲハの仲間。県内では4月下旬から7月にかけて見られる。
注2キマダラリツバメ / 幼虫の時期を、桜の古木に巣をつくるハシブトシリアゲアリと共生するチョウの一種。昭和52年に山梨県の天然記念物に指定。
注3仙人 / 当時「三条の湯」の小屋番だった岡部さんのこと。現在は奥多摩小屋の小屋番。
注4キヒダフウセンタケ / ヨーロッパに自生するきのこ。日本では丹波山村の高尾天平（でんでい）で初めて発生が確認された。
注5プログラム / 毎年8月に行われる多摩川子どもサミットで組まれている自然体験プログラムのこと。

のめぐりがいいんじゃないか」という仮説を検証しようとしています。そういうことをもとに、自然の中で暮らすことの大切さを証明したいと思っています。また、小さな子どもたちがいるような力を身に付けるためにはどんな生活を送らなければいけないのか、丹波山での子どものキャンプをとおして研究しています。

丹波山村との関係は、20年くらい前からなるでしょうか。丹波山の方が山梨大学の社会教育主事の講習会で私のプログラムに参加されたことがありまして、それでオモシロイということになって村に誘われましてね。それ以来毎年です。丹波山の川や沢などでアウトドアアクティビティをするのが仕事だったり楽しんだりしています。

【柴田】山梨県の森林総合研究所の職員です。もともとは植物の病気の研究をしていましたが、山梨でこの研究をはじめた20年です。丹波山村との縁なんです。実は昔から山が好きで、高校生の頃に初めておじゃましました。その頃は柳沢峠までバスもとおってました。簡単に来れましたよ。今の方が大変（笑）。その時に三条の湯に泊まって、「うるせー高校生だ。早く寝ろ。」と仙人（注3）に叱られました。怖くてね、「二度と来るもんか」と思って

たんですが、あの頃は丹波山村との縁がこんなふうになるとは思ってませんでした。もっとも今はきのこがとりもつ縁ですが、実は私の本業はシイタケやナメコ、マイタケの栽培法などのマニュアルをつくらしたりするのが仕事なんです。最近は何ん

..... 丹波山村の魅力再発見

【柴田】丹波山村の山は比較的東京に近い

割には人が入っていませんから、富士山あたりのきのこは違ってあまり手付かずで残っている。30分ほど登ればいいですし、他の地域との比較調査をするのに貴重な場所。人は親切だし、だんだんはまってしまつて抜けられなく...

【平田】三島先生の動物生息調査でもそうでしたが、ここは生物の多様性が豊かです。

【柴田】いろんなものがあります。対面積当たりの生き物の種類が非常に多いです。高尾天平（でんでい）で僕が発生を確認したキヒダフウセンタケ（注4）は、日本で初めての確認でした。

【平田】パブルが上昇すれば日本は開発され尽くしていきま。その中で自然に手を付けずに残すことは価値観が高い。ここは行政上は山梨県なんです。実際のところ地勢上は東京なんです。

【湯本】そうですね。生活圏としては、【平田】東京からすぐなのに、これだけ恵まれた環境が残っているんです。これが売り物であって、それなりの貴重な誇りある文化があるんです。

【柴田】それがすごいことだ。これは住んでるとわかつらいかも知れないです。【三島】もっといい旅館をつくらう、立派なテニスコートをつくらう、モーターバイクや野球場をつくらう。そうなったときに多くの人は丹波山はおもしろくなくなると言っんじゃないですか？地元にお住まいの方にはご迷惑な話かもしれませんが、しかし、自然こそ丹波山の魅力だと誇りに思っていたらと思いません。口で言うのは簡単。暮らしがありますか？.....「三島君はいつまで俺たちを山の民にしておくんぞりなんだ」とおっしゃるかもしれませんね。



13 Beautiful Tabayama Village Life

るのが小中学校の教員役目だと思っ
てます。
【伴野】そう、教育のね。ぜひやってほ
いですね。地元の学校での理科の教育を
おして、自分の住んでいる場所のすばらし
さをまず知ってもらいたい。
【湯本】潜在的には知っているんですが、
【三島】湯本先生は中学校で、草木染めの
授業を行っていましたね。今でもされている



方がおられるんじゃないですか？(草木染
めは)非常に魅力的です。この植物を
使って見事な作品をつくってらっしゃっ
た。先生が普及されたことが、村の自然の
魅力を再発見する大きなきっかけとなっ
たと思います。
【湯本】丹波の自然を教材の中にとりし
ら生かせるかと考えまして、草木染めと和
紙づくり、陶器づくりを行いました。草木
染めは、何を使っても染まるのですが、丹
波山ならではのワサビですね。子どもたち
は非常に意欲的で、「これ染めてみよう、
あれ染めてみよう」ともすごい種類の草
木を試していました。同じ色はぶたとな
くて、山の恵みですね。保護者の方もやっ
てみたいということになりまして、活動が
広がっていききました。

【三島】きのこ染めだつてできるんです。
【柴田】そうですね。ロクショウウグサレキ
(注6)という青いきのこがありますから。
【川村】へえ。
【三島】この付近の人が召し上がらないき
こので、おいしいきのこってありますか？
【柴田】あるんですよ。今日もね、カラカ
サタケっていうきのこを紹介しました。天
ぷらにするのにおいしいんです。
【平田】(村の活性化のためには)人を呼び
込まないといけないんですが、あまり呼び
込みすぎると環境に悪いし、どうしたら
いいか。さつき三島先生がおっしゃったよ
うに、昔だったらテニスコートかなんかを
つって大学のテニスサークルを呼んだりし
たんでしょうが。(笑)。村を訪れた人に
村内で出会ったり発見したいものを、例
えば写真や文章で応募してもらって「丹波山
にこんないいものみつけ」というのはど
うでしょうか？外から見たい面ですよ
ね、そういう情報を蓄積していくんです。
「トングリがあった。よかった」なんてこ
とかもしれないんですが。

【川村】「心ある人に来てほしい」ですね
選別が難しいんですが、丹波に来ると心あ
る人になるのかもしれないんですが、やっぱ
り心ないことをして帰っていくようであ
れば、何か少し違うかなという気がします。
例えば、村の人たちやこの村を大事に思
う人たちが伝えたい部分以外で時間を過
してしまつような場合など。
「ここに来て、心にしみるような何かを感
じた人は、また来てください。そうでない
人は「ごめんさい」と(笑)。
【三島】何にもないということば、すばら
しいんです。人寄せパンダや組織やハー
ドなどをつくつたり、温泉が出たというの
は、何よりなんです。それよりも何よりも

昔ながらの生活があつて、ただありのまま
の自然がある。これは本当に魅力的なこと
なんではないかと思ひます。

……「体験すること」の意味

【平田】今の子どもたちはすぐにキレルと
か学級崩壊とかいろいろ問題があります。
学校にも当然問題があると思うんですが、
まず家庭に問題がある。子育てをとおして
子どもが大人になる段階でいろいろな体験
をしないと次の行動プログラムが開かれな
い、というのが行動学上の一般的な解釈な
んです。例えば子ども頃に動物を殺し
ていけば、その虫はかわいそうだけれども
殺してしまえばどうなるかということわ
かる。そういう体験をしてみないと、わか
らない。体験して失敗してみないと考えな
い。川で遊ぶ山で遊ぶ、自分の五感で体験
できるということが、今回のプログラムの
一番大きな意味なんじゃないでしょうか。
【川村】五感を刺激する体験は、今度は直
感的な判断能力を培うことにつながつてい
るんですね。経験が少ないとどうしたら
いいかわからないし、難しいことには挑戦
しない。ストレスを打ち破ることができない。
成熟しきれないまま大人になった大人が
増えている原因ではないでしょうか？



【平田】僕の知り合いでね、野
外の生き物に対して知らないも
のは見えない、わからないって
言う人がいるんだけど、それで
あつたら科学は進歩しない僕

らの研究も成り立たないんです。全くわか
らないところから発見して、いろいろな生
き物に名前を付けてここまで来たんだか
ら。目があつて耳があつて五感を駆使すれ
ば、自然の中で「じつ」と見れば見える、
これが私の見解でして、そうした体験をし
てもらうことが、このプログラムの一番大
きな意味だと思つて、丹波山村に来て川の
専門家ではありませんが、今日も子どもた
ちと川に潜りました(笑)。
【川村】言い過ぎになるかもしませんが、
学校では「答え」が要求されますよね。自
然界で生きていくということには「答え
がない。自分で見つけていくもんだ。ど
こが自分にとってよいのか、何が大事な
のか、それを判断する力は異例の中で培つ
ていくものです。乏しい体験だと何が正しい
のかわからない。自然ではそれをだま
つても教えてくれる場所」と言いますか
ーとがいつばいある。でもヒントをどうや
つてつかむかは経験するしかないです。大
人が教えるもんじゃありません。人間が「教える
のには限界がある。われわれ大人は伝える
ことはしますが、それはあくまでもヒント
であつて答えではない。答えを見つければ
は自分自身だし、自然の中にはヒントがい
っぱいあるし、答えもいっぱいあるんです。
【湯本】子ども自体は外、好きですよ。
【平田】今の子どもも、外に出ると疲れる
とかかつたるとか、最初は言つただけで、
外に出ちゃつと楽しくなつちゃつ。基本的

に自然や生き物は大好きなんです。人間
はね。
【伴野】私の場合は(子どもの頃から)好
きでした。春は魚釣り。夏は虫とり。秋は
きのこ。小学校時代はそうやって過しま
した。そのまま大人に。
【柴田】正統派だ(笑)。湯本先生は子ども
の頃から虫類が好き。
【湯本】両生類ですよ(笑)。カエルとかサ
ンショウウオです。
【平田】私もやっぱり基本的に好きでした
ね。ツマゲロヒヨウモンっていうのも
きれいなチョウがいて、小学校の頃、図鑑
に出てなくてすつとなぞだつたんですけ
ど、高校生の頃、立派な図鑑に出てくれ
しくて。
……雲取で、ベースが茶色と紫で、端が黄
色いチョウがいました。あれは……？
【湯本】キペリですよ。
【伴野】そう、キペリタテ八ですね。ちょ
うど今くらいですね。遅いタテ八ですね。
【柴田】聞いただけでわかつちやうなんて
危ない人たちですね。(笑)。
……最後に丹波山村へメッセージ

しい水と空気が、美しい山や川、それ以外何
があるというわけではありませんが、それ
が私たちの誇りです。と、非常に誇らしげ
に言えるようになってほしいです。
【伴野】今ある自然を残してほしいとい
いますか、お願いですね。それを誇りにし
てほしいです。財産にしてほしいです。も
つ、それだけです。
【平田】僕も同じなんです。生態学者で
すから自然を大事にしてほしいこと、こ
こに暮らす人の「よさ」、そして文化を、
これを大事にしてほしいと思います。
【川村】それに加えて、村の方々はすく
色々なことを知っています。僕らがここ
でキャンプしますと、どこからか聞きつけ
て人が大勢集まるんですよ。いつのまにか
いるんですよ。
……先生方が来られると防災無線で全音に
放送されているというワザですね(笑)。
【川村】(村の人たちは)村の古くからのこ
とや自然について、たくさんいろんなこと
を知つてらっしゃるんですよ。僕はキャン
プなどで子どもたちに村の雰囲気伝える
ことはできますが、村の人たちがこの暮
らしから学んだ知恵やよさを、ここへ遊び
に来た人たちに伝える場があるといいで
すね。

【湯本】私は研究者ではありませんが、丹
波山を大好きな人間として言わせていた
だくと、自分のふるさとに誇りをもって外に
向かつて語つてほしいと思います。
【三島】命あるものとのつきあい」という
パンフレットを書いたことがあるんです
が、原体験がなくなつてきたでしょ。パー
チャルな体験が増えつてしまつて、よくある
話ですが、牧場にやつてきた子どもが「あ
〜牛だ。絵に描いてあるのにそつくりだ」
と。車や電車、飛行機などの運転操作をシ
ミュレーションできるよつになつて、それ
を練習すれば本物を動かすことができる。
でも大事なことが学べない。失敗したらど
うなるか、という緊張感や疑似体験の中
にはない。そういう意味では自然の中で多
少の危険は伴いますが、原体験を大切にし
ないといけません。
【川村】川を下るプログラムでは、冒険と
しての要素がたくさんあるんです。危ない
ことをするということではなく、新しいこ
とやワクワクする何かがあることは、冒険
の範疇に入るのではないかと思つんです
よ。例えば川を下る、これはめつたにでき
ないですよ。普通はやらせない。でも
ここではできるんですよ。水がきれいだし
場所をしっかりと見極めて命が危ないところ
をちゃんと見極めておけば、「コロコロして
どつかすつたり足をひねつても死なな
いわけですから、そういう意味では子どもに
とつてはワクワクランドです。大人にと
つては大したことなくても。丹波山村の魅力
や味が子どもたちの中に広がつ
ていると思います。子どもが
いんな感覚器官をきたえていく
ためには、多様な体験が必要だ
と思います。
【平田】僕の知り合いでね、野
外の生き物に対して知らないも
のは見えない、わからないって
言う人がいるんだけど、それで
あつたら科学は進歩しない僕

注6 ……ロクショウウグサレキ / 菌類の一種で、青緑色をしており、着生する材も青緑色に染める。温帯に広く分布。
注7 ……丹波時間 / 丹波山村に流れる独特の時間体系のこと。



*このインタビューは平成13年8月25日丹波山村で行われ
たものです。